所管課:大阪府教育庁 文化財保護課

施設名称:大阪府立弥生文化博物館

指定管理者: AKN共同事業体

評価委員会の指摘・提言 R5 R6 R7 評価 指定管理者の自己評価 施設所管課の評価 評価項目 評価の基準(内容) | 評 | 評 | 評 (12 月記入) (1月記入) S~C 価価価 S S (1)施設の設置 ◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理 目的および管運営がなされているか 理運営方針 ○資料の収集・保管・展示 ○資料の収集・保管・展示 ○資料の収集・保管・展示 評価基準を満たしている。実物資料の適切な管 ・常設展示室、特別展示室において、目視点検により展示品 を管理。 理・活用等が行われているほか、関係機関等から の多数の寄贈図書についても適切に管理されて ・一般収蔵庫の棚に保管している土器等には転落防止のた いる。 めのロープを設置している。 ・展示室及び一般・特別収蔵庫において温湿度データを集 ・特別収蔵庫温湿度のモニター監視。 ・ポジフィルム等の写真資料は学芸室の専用キャビネット で保管。 ・新規図書・購入図書等をデータベースに入力(計989冊) - 提案の履行状況に関する項目 ○調査研究による最新の成果の発信 ○調査研究による最新の成果の発信 ○調査研究による最新の成果の発信 ・図録2件(夏・秋季特別展、夏季は論考含む)を発行した 評価基準を満たしている。内容面では、考古学 ・図録の刊行 2 回 ほか、令和7年3月には、包括連携協定を結んでいる公益 の研究手法にアプローチした夏季企特別展のほ 財団法人大阪府文化財センター職員による最新の発掘調 か、秋季特別展では「発掘された日本列島 | 展を 査成果の発表を含む講演会を予定。 開催するなど、博物館の個性を活かした展示と、 ·「「瓜生堂遺跡出土銅戈」大阪府指定文化財指定記念講演 その図録を刊行した点が評価される。くわえて、 会」を実施し、新指定文化財(常設展示品)に関する学術 発掘成果や新指定報告も博物館の調査研究発信 的評価を紹介。 の取組みとして適切に実施した。 ○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館 ○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館との一体的な活動 ○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館との− との一体的な活動 ・池上曽根弥生情報館及び池上曽根弥生学習館に出張展示。 体的な活動 · 事業実施 2回 ・昨年度に引き続き、史跡池上曽根遺跡周辺エリアの活性化 目標回数を超えており、評価基準を満たしてい にかかる WG による定例会議開催、HP における共同情報 る。内容面では、地元市と連携し、共催で体験型 イベントを複数回開催するなど、池上曽根遺跡エ 発信を行った。 ・池上曽根弥生学習館ほかとの共催イベント「泉州弥生の郷 リアの活性化に大きく貢献している点が評価さ れる。 プロジェクト 弥生の郷の米づくり」を開催。 ・夏季特別展関連ワークショップ「土器でお米を炊こう」を 共催イベントとして8月24日(土)に開催(18名)。 ・共催イベント「泉州弥生の郷プロジェクト 『遺跡で考古 学者体験!』|を12月8日(日)に開催(23名)。

指定期間:令和5年4月1日~令和8年3月31日

	・共催イベント「泉州弥生の郷プロジェクト『池上曽根遺跡		
	スタンプラリー』」を3月に開催予定。		
	◎自己評価	◎施設の設置目的および管理運営方針にかかる	
	適切な方法と配慮のもと、資料の収集・保管・展示を心掛	評価	
	けた。また、昨年度と同様に図録や講演会による最新の成果	すべての評価基準を満たしており、上回ってい	
	の発信に努めた。	る項目も見られる。最新発掘調査成果にかかる展	
	池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館とは定例会議を開	示や講演会を企画実施するとともに、出張展示や	
	催して昨年度に引き続き連携強化を図り、情報の発信、共同	地元市との連携など、積極的に池上曽根遺跡エリ	
	イベント実施などに関して当初の予定を上回る実績をあげ	アの活性化に貢献している点が高く評価される。	
(2) 亚维利田 人人亚西北 1995年世上村市 原 25 - 1	ることができた。		
(2)平等な利用◇公平なサービスの提供と対応、障がい者な四スなめの京艶者。の配度がなされているか	i ·		
を図るための高齢者への配慮がなされているか	○古松老 降ぶ、老笠。○和田松田	○古松本 降ぶ、本体。 ○利田極中	
具体的手法・効○高齢者、障がい者等への利用援助	○高齢者、障がい者等への利用援助	○高齢者、障がい者等への利用援助	
果	・観光庁による「心のバリアフリー認定施設」の認定を取得。 ・聴覚障害者に講演会の内容を理解していただくため、UD	高齢者や障がい者の利用への援助がなされ、利 便性の向上にも目が向けられている。	
	・		
	・府立聴覚支援学校を含む5校、放課後等デイサービス4団		
	体など、積極的に受け入れを行った。		
	・敬老の日に 65 歳以上は入館料無料として利用促進を図っ		
	た。(計3名)		
	, Co (HI O LI)		
○子供にも分かりやすい解説の充実	○子どもにも分かりやすい解説の充実	○子どもにもわかりやすい解説の充実	
	・夏季特別展、秋季特別展において、通常の解説とは別に子	自館の個性を生かした形で実施することで、解	
	ども向けに館キャラを利用した分かりやすい展示パネル	説の充実を図っている。	
	を作成した。		
	・通常の音声ガイドに加えて、館キャラを使用した音声ガイ		
	ドを用意している。		
	・館キャラを使用した、ホームページ掲載の漫画を新たに更		
	新した。		
	◎自己評価	◎亚学を利用も図ったはの目は始ずけ、料果によ	
	○日□評価 「心のバリアフリー」に関する研修を実施、法改正や障が	◎平等な利用を図るための具体的手法・効果にかかる評価	
	い者への対応を職員全員が学び、考え、より良いサービスを	かる評価	
	提供できるよう体制を整えるとともに、子供に分かりやすい	通して、障がい者や子どもの施設利用への理解を	
	表現で学習資料を作成している。	選して、障がい有やすどもの他設利用への理解を 深め、充実を図っている。	
(2) 利田老の母人利田老母也のとよってナバナンしてい			SS
(3)利用有の場(2利用有場皿のためのエチがたされてい	1 A	•	
	3		
(3)利用者の増 ◇利用者増加のための工夫がなされてい 加を図るため か の具体的手法・○展覧会・スポット展示などの実施	・○ ○展覧会・スポット展示などの実施 6回(予定含む)	○展覧会・スポット展示などの実施	

	ーリー―」(開催日数 56 日、入館者 8184 人)	資料の展示にとどまらない挑戦的な内容の夏	
	・夏季特別展「土器研究の可能性一新たな分析と弥生社会	季特別展のほか、大阪府立近つ飛鳥博物館と同時	
	一」(開催日数 56 日、入館者 6455 人)	開催した「発掘された日本列島 2024」では、全国	
	・秋季特別展「発掘された日本列島 2024・地域展 大阪に	規模の大きな展覧会を実施するなかで、自館の強	
	伝来した龍」(開催日数 56 日、入館者 6220 人、大阪府立	みをふまえた内容の地域展を展開することによ	
	近つ飛鳥博物館との同時開催)	り、利用者増加に向けた博物館の個性のアピール	
	・冬季ミュージアムギャラリー*「神々の微笑・日本文化の	につながった。くわえて、冬季ミュージアムギャ	
	根源を求めて一小灘一紀 日本芸術院賞受賞記念『古事	ラリーを開催することにより、各季節それぞれで	
	記』絵画展一」(開催日数 50 日 (予定))	特別展示室を利用した比較的大規模な展覧会に	
	*ミュージアムギャラリー:特別展示室を利用した美術展等(入 館料は通常料金設定)	取り組んでいる点が評価される。	
	・弥生プラザ展示「久宝寺遺跡に生きた人々」(令和7年1		
	月 21 日 (火) から 6 月 29 日 (日) まで)		
	・スポット展示(予定、令和7年3月18日(火)から5月		
	頃まで)		
○「木曜大学」などの講座の実施	○「木曜大学」などの講座の実施 30 回(計 35 回開催予定)	○「木曜大学」などの講座の実施	
・開催回数 30 回	「春季企画展とんぼ玉制作実演」、「夏季特別展関連講演	記入時点で既に評価基準を満たしており、年度	
	会」、「秋季特別展関連講演会・地域展関連講演会」、「木曜	末までには評価基準を上回ることが見込まれる。	
	大学予科」*(新規事業)、「木曜大学」、「木曜大学大学院」	従来の講座の実施形態にくわえて、新しい講座の	
	を実施。この他「「瓜生堂遺跡出土銅戈」大阪府指定文化	企画に挑戦したことにより、実施回数的な面で	
	財指定記念講演会」を実施。	も、講演の多様化による質的な面でも評価され	
	また、「春季企画展」、「夏季特別展」、「秋季特別展」にお	る。	
	いて弥生文化博物館・近つ飛鳥博物館の展示担当学芸員が		
	各館で相互に展示見どころを紹介する「〈交換〉講演会」		
	を実施。		
	(以下予定「冬季ミュージアムギャラリー関連講演会」、		
	「若き考古学徒、論壇デビュー!」、「弥生フェスティバル		
	関連講演会」)		
	*「木曜大学予科」:名誉館長・学芸顧問による「木曜大学」、館長		
	による「木曜大学大学院」開催に先立って、若手学芸員が研究や		
	展示業務の成果を披露する講演会。		
○学校教育との連携	○学校教育との連携	○学校教育との連携	
・学校等の受入	・学校等の受入れ 85 回	・学校等の受入	
	当館における校外学習で歴史への興味・関心をより高める	実施されており評価基準を満たす。	
	一方策として、下見説明会を開催したり個別の下見も受け		
	入れたりしている。下見の際には、展示内容と教科内容(主		
	に社会科)との関連についての情報提供や、見学する上で		
	の公共マナーについての説明を実施している。また、校外		
<u> </u>			

	学習での学びがより深まるように、池上曽根史跡公園や泉	
	大津市立弥生学習館の活用事例を提供している。	
・出前事業の実施	・出前授業の実施 34回	・出前授業の実施
	出前授業の実施前に当館が提供した出前授業の略案を基	実施されており評価基準を満たす。
	に、利用者と出前授業の目的・ねらいを確認し合うと共に、	
	内容や進め方について共有化を図っている。	
・博学連携事業の推進	・博学連携事業の推進	・博学連携事業の推進
	保育所・幼稚園の遠足(散歩)の受入れにおいて、保育士	実施されており評価基準を満たす。
	教職員と園外活動や食育の観点を大切にした見学内容の	
	共有化に努めている。また、利用者の希望に応じて出前授	
	業も実施している。	
	社会教育施設の役割として、中学校のキャリア教育の一環	
	である職業体験学習を受け入れている。	
	高校と連携することで、生徒向けの展示解説、バックヤー	
	ドツアー、有料のワークショップ(モノづくり)を実施し	
	ている。	
	大学からの要望により、学芸員資格に必要な博物館実習を	
	開催している。	
	小中高校の教職員対象に博学連携セミナーを、教職員が参	
	加しやすい夏季休業中に開催している。	
	桃山学院大学の授業カリキュラムの一環として、学生と共	
	同開発したミュージアムグッズ(弥生博物館Tシャツ)を	
	販売している。	
○「でかける博物館」事業の実施	○「でかける博物館」事業の実施	○「でかける博物館」事業の実施
・出張展示 2回	・出張展示(2回)	・出張展示
	大阪府立狭山池博物館スポットテーマ展示「阪神・淡路大	評価基準を満たす見込みである。
	震災 30 年 遺跡からみる災害と復興」、堺市立みはら歴史	
	博物館「大阪府立弥生文化博物館出張展示 米食のはじま	
	り―育てる・収穫する・調理する―」	
・出張体験学習 9回	・出張体験学習 8回(計 10 回予定)	・出張体験学習
	西宮阪急コトコトステージ、池上曽根史跡公園夏祭り、む	評価基準を上回る見込みである。
	きばんだフェスタ、ジャパンジョブチャレンジ in	
	SENSHU、秋の民家まつり、泉大津さんままつり、古墳フ	
	ェスはにコット vol.13、2024 友×遊フェスティバルを実	
	施。今後も大阪府立少年自然の家感謝祭オープンデー、弥	
	生学習館ふれあいまつりを実施予定。	
・出張講座 5回	・出張講座 4回(計6回予定)	・出張講座
	近鉄文化サロン阿倍野 摂河泉考古学談議 2024 2回	評価基準を上回る見込みである。

	堺市立みはら歴史博物館 2回 松原市郷土資料館 1回	
○「府民が参加する博物館」事業の実施 ・ミュージアムコンサートの実施 16 回	 ○「府民が参加する博物館」事業の実施 ・ミュージアムコンサートの実施 11 回実施(計 16 回を予定) 令和6年1月26日に令和6年度コンサート選考委員会を実施した結果16組を選定。和から洋まで様々なジャンルのコンサートを開催している。 	○「府民が参加する博物館」事業の実施 ・ミュージアムコンサートの実施 評価基準を満たす見込み。
・ミニギャラリーの実施 3回	・ミニギャラリー 1回実施(計3回を予定) 「第29回絵画コンテスト『卑弥呼の時代を描こう』」を実施。今後、「大阪府伝統工芸展 伝統工芸のわざ 『漆芸』」 「kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」を予定。	・ミニギャラリーの実施 評価基準を満たす見込み。
○広報の積極的な展開	○広報の積極的な展開 ・広報専任スタッフを 1 名増やし、ホームページ(HP)をさらにバージョンアップするとともに、Facebook、Instagramも含め、有効でタイムリーな情報発信を行った。 ・和泉市、泉大津市のHP及び広報誌に随時イベント情報を掲載いただいている。各新聞社はもちろんのこと、南海電鉄や提携機関の会報誌にもイベント情報を掲載している。 ・地域 DMO である大阪観光局、KIX 泉州ツーリズムビューローと連携し、各ウェブサイトでのタイムリーな情報掲載を促すとともに、今年度は共催イベントの開催に漕ぎつけた。(ジャパンジョブチャレンジ in SENSHU への参加。泉州観光地域づくりセミナーの実施。(予定))・歴史街道推進協議会に働きかけ、2025 年 2 月に歴史街道倶楽部・歴史ものがたりセミナーを 2 回、当館で開催することになった。	○広報の積極的な展開 実施されており評価基準を満たす。 各関係機関にチラシを配布するほか、ホームページや SNS を使用した迅速な広報を行っている。 特に鉄道事業者を始め、地域 DMO との連携など、 積極的な広報活動を行っている。
 ○利用者数 ○入館者数及び館外利用者数 令和6年度年間目標 ・入館者数 24,000人 ・館外利用者数 11,000人 令和5年度実績 ・入館者数 25,652人 ・館外利用者数 18,809人 	 ○入館者数及び館外利用者数令和6年度実績 ・入館者数 23,348人(11月末実績、昨年同月比131.9%) ・館外利用者数 12,811人(11月末実績、昨年同月比170.0%) 	○入館者数及び館外利用者数 入館者数は記入時点で目標値に迫っており、目標 を超える見込み。館外利用者数については既に目 標を達成している。
○類似施設との比較	○類似施設との比較吹田市立博物館・入館者数 8,300 人(11 月末実績、昨年同月比 99.6%)	○類似施設との比較 昨年のコロナ禍関係の規制緩和以降、吹田市立 博物館においては入館者数が安定していること

		類似施設と比較しても、当館は前年比 131.9%と大幅に伸	
		張している。	的な各種活動に比例して、入館者数が大きく増加
			していることが評価される。
			なお令和元年度との比較においては、両館はと
			もにコロナ以前の水準に向けて回復しつつある。
	◇利用者満足度調査		
	○利用者満足度調査の結果	 ○利用者満足度調査の結果	○利用者満足度調査の結果
	・「満足」「やや満足」の割合 90 %	・「満足」「やや満足」の割合 98%	・「満足」「やや満足」の割合
		調査期間: 4月1日~11月30日、回答数 848	目標値を大きく上回る成果である。
		春季企画展: 98%	日际値で入る「工団の灰木である。
		夏季特別展:99%	
		7八子1寸別校・2170	
		◎自己評価	◎利用者の増加を図るための具体的手法・効果に
		特別展等については指定管理者業務仕様書において年3	かかる評価
		回以上の開催が求められているところ、今年度は、春季企画	評価基準を満たしており、評価基準を大きく上
		展、夏季特別展、秋季特別展に加えて、冬季ミュージアムギ	回る項目も見られる。展示や講演会などの活動が
		ャラリーを開催し、計4回の実績となる予定。関連講演会や	目標を大きく上回っていることや、これらの展示
		WSを含め内容・回数共にスケールアップして開催したほ	等活動の内容面の充実から、積極的な活動姿勢が
		か、大阪府内での開催は10年ぶりとなる「発掘された日本	うかがえる。ほか、昨年度に引き続き、企画立案
		列島展」を近つ飛鳥博物館との同時開催により実施できたこ	や広報における地域との新たな連携等、取組を強
		とも大きな成果と考える。	化し実施している点が高く評価できる。
		また、あらたに来館者のニーズへの対応として木曜大学予	
		科を開講したほか博学連携の試みとして桃山学院大学の授	
		業と連携し、ミュージアムグッズ(オリジナルTシャツ)の	
		作成を行った。	
		関西経済界・行政が支援する歴街道推進協議会とのコラボ	
		レーションも今後深めていきたい。	
(4	4)サービスの◇サービスの向上が図られているか		A A A
广	7上を図るた ○インターネットの活用	○インターネットの活用	○インターネットの活用
Ŋ	の具体的手 ・ホームページの更新	・ホームページの更新 更新回数 61 回	ホームページや SNS により積極的にイベント
挝	医・効果 更新回数 24 回	・SNS の活用 投稿数計 124 回(11 月末実績)	の告知や館活動の発信がなされている。投稿回数
	・SNSの活用	Facebook 投稿数 62 回(フォロワー2,713 人)	についても評価基準を満たしており、適切な運営
	Facebook、Instagram の投稿数	Instagram 投稿数 62 回(フォロワー1,230 人)	がなされている。
	計 130 回	ホームページ、Facebook、Instagram において催事の告知	
		や館の活動を発信した。	
	○施設の積極的な活用	○施設の積極的な活用	○施設の積極的な活用
	・体験ゾーンの活用	・体験ゾーン 143 回	実施されており評価基準を満たす。
	「竹がく マップロリロ	「下型スノーマーエコ」口	△//世ピ 4 V C 4 V / 日

	・1F フリースペースの活用	小学校だけではなく放課後等デイサービスなどにも、利用 の促進を図った。また、活動後達成感・成就感を体感する ために、体験ゾーンの進め方や体験ゾーンの活動に目標や ねらいを設定することを提案した。 各種団体の体験ゾーンの利用について、利用者と人数、年 齢、身体能力等の点について一緒に考えた。 ・1Fフリースペースの活用 学習館、情報館のパンフレットを配架し、当館を含んだ三 館を紹介する池上曽根史跡公園のガイドマップを設置し ている。 また、ワークショップの会場や、秋季特別展に関連するパ ネル展示や、映像を放映した。		
	○展示解説リーフレット・解説シートの配付	○展示解説リーフレット・解説シートの配付 展示解説リーフレット 2 冊:夏季特別展、冬季ミュージ アムギャラリー(予定) 展示解説シート 1 件:弥生プラザ(予定)	○展示会図録の刊行、展示解説リーフレット・解 説シートの配布 実施されており評価基準を満たす。	
		◎自己評価 広報専任スタッフを1名増員し、HP、SNS のよりタイム リーな展開ならびに印刷物作成の強化を図った。	◎サービスの向上を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。1階フリースペースの活用方針が定まり、体験ゾーンの利用を拡充した点は、池上曽根遺跡エリア全体のサービス向上に資する取組みと評価できる。	
(5)施設及び資	◇施設・設備の維持・安全管理計画は適切か		A	A A
料の維持管理の内容、的確性	○施設及び資料の管理・年間計画の策定と適切な実施・定期点検の実施と記録簿の作成	 ○施設及び資料の管理 ・年間計画の策定と適切な実施 AKN 共同事業体各社の柔軟な連携をもとに、施設管理年間計画を策定、月1回のJV会議を開催し、情報共有・対応策の即時実施に努めた。 ・定期点検の実施と記録簿の作成 	○施設及び資料の管理 ・年間計画の策定と適切な実施 年間計画が策定され、計画に沿った施設管理が 実施されている。また、緊急を要するケースにおいても、状況の速やかな把握、対応策の実施等、適切な対応がなされている。	
		近鉄ファシリティーズ社による年間点検計画の計画的履行とお生まの作成、沙防署のの提出を行った。	・定期点検の実施と記録簿の作成	
	○危機管理 ・マニュアルの履行 ・訓練の実施	行と報告書の作成、消防署への提出を行った。 ○危機管理 ・危機管理マニュアルの更新並びに和泉消防署の監督による消防訓練を実施する。(12 月 27 日) ・2025 年 2 月初旬に、和泉消防署の依頼により、文化施設における共同消防訓練を当館で実施する。	施設・設備の定期点検が適切に実施され、記録 簿の作成がなされている。 ○危機管理 マニュアルが適切に履行され、検査の実施がな されている。防災訓練が適切に行われる見込み。	

		◎自己評価 和泉警察署の監督、連携のもとに消防訓練を2回実施し、 被災時に円滑な行動が出来るよう職員を教育する。		◎施設及び資料の維持管理の内容、的確性にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。特に消防訓練の実施予定や、危機管理マニュアルの更新・災害対応の検討など、有事の際に適切な対応をするよう心掛けられている。		
(6)府施策との	○◇提案に沿った府施策との整合が図られて		A		A A	
整合	いるか					
	○「こころの再生」府民運動への協力	○「こころの再生」府民運動への協力				
	・「こどもファーストデイ」の実施 12回	・「こどもファーストデイ」の実施 8回実施(計 12 回実施		○「こころの再生」府民運動への協力		
		予定)		・「こどもファーストデイ」の実施		
		毎月第3土曜日を「こどもファーストデイ」としてワーク		年度内に評価基準を満たす見込みである。		
		ショップを開催し「まいど子でもカード」を提示いただい				
		た同伴の保護者についても入館無料とした。				
	◇就職困難者等の雇用	◇就職困難者等の雇用		◇就職困難者等の雇用		
		知的障がい者1名の清掃業務への雇用を再委託先で実施。		計画どおり雇用されている。		
	◇府民・NPO との協働	◇府民・NPO との協働		◇府民・NPO との協働		
		・ミュージアムコンサートは 11 回実施(計 16 回実施予定)		適切な協働の企画が実行されている。		
		・ボランティア活動は、各種イベントにおいて、活用。				
		・NPO「はにコット」主催のイベントへ参加。(11 月)				
	◇環境問題への取り組み	◇環境問題への取り組み		◇環境問題への取組み		
		・クールビズ・ウォームビズの取り組みを実施し、昼食時の		適切に実施されている。		
		室内消灯、昼間の廊下の消灯など消費電力の低減を図っ				
		た。また、ごみの分別を職員に意識付けを行った。				
	◇『大阪府文化財保存活用大綱』をふまえた	◇『大阪府文化財保存活用大綱』をふまえた運営		◇『大阪府文化財保存活用大綱』をふまえた運営		
	運営	・活用拠点の運営(府立博物館)に基づき、企画展・特別展		保存活用大綱の内容をふまえ、文化財の活用拠		
		の実施など「展示・公開」、こどもファーストデイ・出前		点として運営されている。		
		授業など「体験・体感・ワークショップ」、特別展関連講				
		演会の実施・図録作成など「講座・講演会・出版」、を関				
		連機関、周辺地域と連携し、着実に実行した。				
		・多面的な価値を生み出す取組として、将来を担う子供たち				
		の育成の一助とするため、中・高校生を対象とした職場体				
		験学習を実施し、地域の歴史や文化に対する理解を醸成し				
		た。				
	 ◇大阪府障がい者差別解消条例等に基づく	◇大阪府障がい者差別解消条例等に基づく合理的配慮の提供		◇大阪府障がい者差別解消条例等に基づく合理		
	合理的配慮の提供	・合理的配慮を提供することを目的に、館職員全員に研修		的配慮の提供		
		を実施した。(9月)		適切に研修が実施され、合理的配慮の提供を可		
				能としている。		

			◎自己評価		◎府施策との整合にかかる評価		\Box	
			府の諸施策を反映した取り組みを確実に実行している。 		 すべての評価基準を満たしている。特に博物館			
			館内・館外イベントを精力的に開催・参画し、多くの来館		 周辺エリアとの連携を強め、「活用」の拠点として			
			者を獲得するとともに、ミュージアムコンサートの開催日を		適切に運営されている。			
			増やすなど、親しみやすい博物館をアピールした。 					
			また、心のバリアフリー認定施設として、職員の意識・サ					
			ービスの質の向上に引き続き努めたい。					
II	(1)利用者満足	◇利用者満足度調査の実施により利用者の	◇利用者満足度調査の実施による利用者意見の反映	A	◇利用者満足度調査の実施による利用者意見の	A .	A	
さら	度調査等	意見を把握し、その結果を運営に反映してい	・各種アンケート(特別展、企画展、木曜大学・大学院・予		反映			
なる		るか	科、講演会、コンサート)の意見を取入れ、お客様の満足		利用者の意見を反映した事業実施がなされて			
ੈ ਹੈ 			度向上に資するアクションをとるよう心掛けている。		おり、評価基準を満たしている。			
ビスの			◎自己評価		◎利用者満足度調査等			
向 上			今年度もお客様から高い評価をいただくことが出来た。		調査実施の結果のまとめ・分析・共有が行われ、			
に			常に、お客様からのアンケート記載内容をもとに、全館会		利用者の意見を反映して管理・運営が改善されて			
関す			議で検討し、改善を行う体制をとっている。		おり、新たな試みを多く行う中においても良好な			
に関する項目					博物館環境の維持に努めていると評価できる。			
目	(2)その他創意	◇その他指定管理者によるサービス向上に	○動画等の公開 2件	A	○動画等の公開	A .	A	
	工夫	つながる取組み、創意工夫が行われているか	· 夏季特別展紹介動画 1件		今後の実施予定を含め、評価基準を満たす見込			
		○動画などの公開	・秋季特別展紹介動画 1件		みである。			
		・インターネットでの解説動画等の公開 3件	冬季ミュージアムギャラリーにも動画を作成予定。					
			◎自己評価		◎その他創意工夫にかかる評価			
			来館者からのアンケートに基づき、ホームページの「ご案		需要に応じてホームページに工夫を凝らすな			
			内」に館内催事がカレンダー上でわかる「催し物カレンダー」		ど、より満足度の高いイベントの提供を心掛けて			
			を追加した。		いる点が評価される。			
			また、各展示ごとに展示状況や来館者への宣伝を兼ねた動					
			画を制作し、公開した。					
ã <u>Ⅲ</u>	(1)収支計画の	◇事業収支について、計画どおりに実施され	◇事業収支計画	A	◇事業収支計画	A .	A	
能適 力切	内容、適格性及	ているか	【収支計画(当初予算)】		経費節減に加え、補正予算策定などにより、適切			
及なが	び実現の程度		収入 (税込)		な経費執行が行われている。			
財理			大阪府委託費 126,921,000 円					
以 業 基 務			入館料収入等 3,500,000 円					
■適切な管理業務の遂行を図るこ			計 130,421,000 円					
関行を								
る図			支出(税込)					
するこ			施設維持管理費 31,303,000 円					
と が			人件費他 99,118,000 円					
で			計 130,421,000 円					
ජ්								

		11月末現在の進捗状況 収入(指定管理料を除く事業収入)104%		
		支出(11月分請求書まで) 65% ©自己評価 入館料収入は11月末現在で事業計画の132%に達し、年度末までの最終で150%程度となる見込みである。昨年度同時期対比204%増で、春季企画展、夏季、秋季特別展への来館者数の増加および、特別展開催件数の増加が、入館料収入増につながっている。(入館者数:昨年度同時期対比131%増)	◎収支計画の内容、適格性及び実現の程度にかかる評価入館料収入が事業計画を上回っている点が評価される。計画的な支出に取組み、バランスの取れた執行が図られている。	
		支出の割合は、11月末現在で65%。経費節減に留意し、おおよそ計画どおりに進捗し安定的な運営を実現している。		
	■◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうまえ、適切に事業が実施されているか	◇指定管理者で雇用している学芸員2名について、7月末に 1名退職。もう1名についても9月より出勤日数が減少することとなった。学芸資格を持つミュージアムスタッフから移籍することで1名補充。非常勤の派遣スタッフ2名を配置することで不足分を補っている。	◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか 計画通りの人員が配置され、充実した事業実施がなされている。	
	◇従業者への管理監督体制・責任体制が整備 されているか	 ◇AKN共同事業体における博物館定例会議、文化財保護課との連絡会議(各月1回)及び博物館内会議(週1回)を開催し、事業情報の交換、入館状況、注意事項等の周知を図り、責任体制を明確にし、設置者及び法人本部からの適切な管理監督体制のもとに円滑な組織運営を行っている。 	◇従業者への管理監督体制・責任体制が整備されているか 共同事業体間で日常的に密な連絡調整・情報共 有がなされ、明確な管理監督・責任体制のもとで 管理・運営がなされている。	
		◎自己評価引き続き学芸員の常勤職員の確保に努める必要があると考えている。その他については監督体制および責任体制を明確化し適切に事業実施ができている。	◎安定的な運営が可能となる人的能力にかかる評価学芸員の配置について、館の現状に向き合い、対応する姿勢が認められる。確実な管理監督体制のもと、適切な業務が実施されていることから、評価基準を満たしている。	
(3)安定的な選 営が可能となる財政的基盤	重◇法人の財務状況は適切か	◇【アクティオ株式会社】	◇法人の財務状況は適切か アクティオ株式会社・近鉄ファシリティーズ ・乃村工藝社の三社共に経営状況は安定してお り、借入金もない。	
		令和 5 年度決算(2023 年 1 月~2023 年 12 月) 売上高 10,438,115 千円 売上総利益 1,694,200 千円		

営業利益 395,203 千円	
経常利益 473,757 千円	
純利益 324,361 千円	
借入金なし	
【近鉄ファシリティーズ株式会社】	
近鉄グループのビル物件等を中心に、地方公共団体や民	
間企業の施設維持管理業務等を受注し、さらに事業統合	
並びに徹底したコスト削減により安定的収益を維持して	
いる。	
令和6年度上半期	
売上総利益 982,894 千円	
営業利益 358,094 千円	
経常利益 482,282 千円	
純利益 330,282 千円	
借入金なし	
【株式会社乃村工藝社】	
上期売上高は、下期に大型案件の進捗が集中している影響	
もあり前年同期に比べ減収となっているが、	
通期業績予想は、需要回復および下期に控える大型プロジ	
ェクトを着実に推進することで 増収で着地する確度が高い	
と見込んでいる。	
令和 6 年度上半期(2024 年 3 月 1 日~2024 年 8 月 31 日)	
売上高 57,945,000 千円	◎安定的な運営が可能となる財政的基盤にかか
営業利益 1,442,000 千円	る評価
経常利益 1,527,000 千円	グループの各構成員とも安定した経営状況に
四半期純利益 851,000 千円	あり、評価基準を満たしている。

R 5 年度評価:A R 6 年度評価:A R 7 年度評価:

総合評価 (R 5 ~ 7 年度): II 最終評価 (R 5 ~ 7 年度):

- S:計画を上回る優良な実施状況 A:計画どおりの良好な実施状況 B:計画どおりではないがほぼ良好な実施状況 C:改善を要する実施状況
- ②年度評価は、次の4段階評価とする。
 - S:項目ごとの評価のうちSが5割以上で、B・Cがない A:項目ごとの評価のうちBが2割未満で、Cがない B:S・A・C以外
 - C:項目ごとの評価のうちCが2割以上。又はCが2割未満であっても文書による是正指示を複数回行う等、特に認める場合
- ③総合評価及び最終評価は、次の4段階評価とする。
 - I:評価対象となる年度の年度評価のうちSが5割以上で、B・Cがない Ⅱ:評価対象となる年度の年度評価のうちBが3割未満で、Cがない Ⅲ:I・Ⅱ・Ⅳ以外
- IV:評価対象となる年度の年度評価のうちCが5割以上。ただし、評価対象期間の後半、取組状況に継続的な改善傾向が認められる場合を除く
- ※備考:R6年度は総合評価、R7年度は最終評価を行う。